



# 大草小学校だより

第16号

令和5年12月22日

校長 山口 隆

## 見事な門松・おいしいおもち

～ありがとうございました～

12月18日月曜日、学校に来てみると門扉の所に立派な門松がそびえていました。制作には参加できなかったのですが、とても多くの方が集まってくださり、門松班、餅つき班に分かれて作業をしてくださったとのことでした。楽しそうな子どもたちの顔。おいしそうにほおぼる顔。写真で見せていただきました。子どもたちは一足早い正月気分を味わっているようでした。ご協力本当にありがとうございました。



## 全ての子が主体的になる授業を目指して

どの子ども生き生きと学ぶ姿を目指して、職員一同日々研鑽を重ねています。12月12日は7月に引き続き、北海道教育大学から宮原順寛准教授をお招きして授業改善の理論と実践とをすり合わせました。また、私自身も12月18日、5,6年生と一緒に国語科の授業を実践しました。さらに翌日、長崎大学教育学部附属小学校から、中村慧亮先生をお招きして師範授業をしていただきました。どの放課後も職員室や校長室で盛んに議論し、大きな学びを得ることができました。私たち教師が成長した分、子どもたちに還元できます。これからも、授業について語り合える職員室を目指していきたいと思います。地域・保護者の皆様におかれましては、授業を参観する際、先生たちはもちろん、子どもたちが生き生きと学ぶ姿を見ていただけたらと思います。



【左：3,4年算数科 生活に根ざした問題に挑戦】【中：5,6年国語科 朗読から映像をイメージ（寝ているわけではありません!）】【右：5,6年国語科 言葉を比較すると見えてくるもの】

## 限界のはずなのに…

自分では限界だと思っていなくても、思わぬ力が発揮されることが人生にはあります。子どもたちが走る持久走を見ていてつくづくそう思いました。もう力なんて残っていないように見えた子が、「声援の力」で短距離走のごとく突然走り出すのです。自分一人の力では成し遂げられないことでも、誰かの応援・励ましがあれば、どこからか力がわいてくるのです。人間に備わっている特別な能力だと思います。当日は地域・保育園児・保護者の皆さんのあたたかい応援があり、多くの児童が自己新記録を出しました。支え励ましてもらった経験は、きっと誰かを支え励まそうとする源になります。またまた目頭が熱くなったひと時でした。



## 147歳 誕生日おめでとう！

4年生が国語科の学習で調べたことを生かして発表したことで、みんなで12月20日に大草小学校の誕生日にハッピーバースデーの歌を歌ってお祝いしました。



笑う門には福来る！

節を生かして切ることで、笑っているように見えます。名人芸！



**終業式の言葉から…**意志を強くするために、自分の得意なところをポジティブにとらえる自尊感情だけではなく、未熟な自分を受けとめることのできる自己肯定感が必要になります。自分が未熟であることを自覚しているからこそ、やり通したり毎日続けたりできるのです。自己肯定感とは、自分自身が失敗や間違いをさらけ出し、まわりの人が自分を助ける機会となるような関係が育むものです。誰かに「助けて」と言えることが、意志の強さを支えることになります。困っているときに「助けて!」と言えますか?困っている人の心の声を聞き取ろうとしていますか?意志とは、自分のためではなく、誰かのために持とうと思わなければ、強くはなりません。たとえば、自分さえわかればいいと思って勉強するのではなく、わからないことを解説できるようになりたいと思える相手がいなければ、勉強は続きません。誰かにあてにされる関係が、意志を強くしていきます。自分が持とうとする意志の強さは、誰を幸せにするのか。自分が創り出す未来を考えて冬休みに得意なことを伸ばす挑戦を続けてみてください。

今年も終わろうとしております。2学期も大変お世話になりました。皆様どうぞよいお年をお迎えください。新年もどうぞ変わらぬご協力のほどをお願いいたします。